

外国で発達障害のある子どもを育て、支援を求めるということ — 言語・制度・文化の壁を越えながら —

加藤 沙紀

【発行】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター

家族について



住居国

イギリス（イングランド）

家族構成

4人家族 夫/小学校低・中学年の子供2人

子どもについて

自閉スペクトラム症・ADHD・知的発達症

通っている学校

現地公立小学校 自閉症専門支援級

経緯と海外生活経験

親の留学 海外での生活経験は一切なし



子どもが直面する困難

子どもが直面する困難 ①

大きな環境変化



- ◆ 「すべてが違う」ことへの適応の難しさ
例) 場所/言語/文化/食事/人/ etc...
- ◆ 家族や友人との別れ
- ◆ ルーティンの再構築

⇒ どの瞬間を切り取ってもストレスが多い状態

子どもが直面する困難 ②

言葉の壁

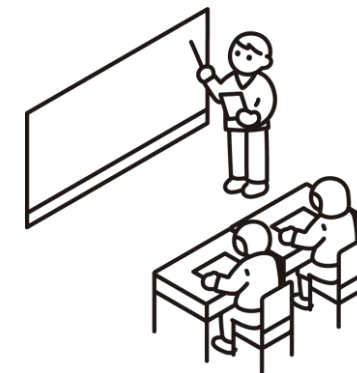


- ◆ 定型発達児よりも言語習得に苦勞するケース
- ◆ 外国語での意思伝達の困難による混乱やトラブル
- ◆ 外国語の理解や表現がスムーズに進まないことによる人間関係・学習への影響
- ◆ 日系教育機関での支援・受け入れ困難

⇒ 自信の喪失・人間関係への影響
⇒ 不登校気味に

子どもが直面する困難 ③

支援開始の遅れ



- ◆ 発達特性を「他言語習得の遅れ」とみなされる
- ◆ 国の支援制度による影響・支援空白期間
- ◆ 日本のような「療育」の受けづらさ

⇒ 日本で受けていた支援の断絶・成長機会の損失



保護者が直面する困難

保護者が直面する困難 ①

渡航前・滞在中・帰国時の一貫した支援の享受困難

- ◆ 外国の支援制度理解の難しさ

例) 日本とは異なる制度内容や専門用語

- ◆ 現地邦人専門家の少なさ

例) 2国間の言語/文化/専門知識を併せ持つ支援者不在

- ◆ 在外教育施設/保育機関の受け入れおよび支援困難

例) 日本人学校ごとに差のある受け入れ・特別支援体制、加配の自費対応

- ◆ 現地の公的支援への繋がりにくさと支援空白

例) 支援制度側の問題による医療・教育・福祉へのスムーズなアクセス困難

- ◆ 日本での相談機関の少なさ

例) 海外で支援が必要な邦人家族を対象に含めている相談先の少なさ



保護者が直面する困難 ②

言葉の壁



- ◆ 母国語で取れる情報の少なさ

例) 外国語での制度や支援の全体構造の把握困難

- ◆ 現地の学校/専門家との正確なコミュニケーション困難

例) 2国間の言語/文化/専門知識を併せ持つ支援者不在

- ◆ 現地コミュニティへのアクセス困難

例) 学校での保護者ネットワーク構築

⇒ 支援への最善の入り口が分からないことによる初動の遅れ

⇒ 現地支援に繋がったとしても正確なニーズを外国語で表現困難

⇒ 正確な情報共有に多くの事前準備が必要

保護者が直面する困難 ③

人とのつながりの希薄化



◆ 頼れる繋がり先の激減

例)配偶者多忙と不在/親戚家族との支援ネットワークの途切れ

◆ 預け先の確保困難

例)同じ言語/文化的価値観/特別な支援ニーズに対応できる人材の不足

◆ 現地コミュニティでの関係構築の負担(邦人コミュニティ含)

例)特殊環境下での人間関係構築の負担/子供に関する情報開示の迷い

⇒ 孤軍奮闘状態



人とのつながりの希薄化



言葉の壁

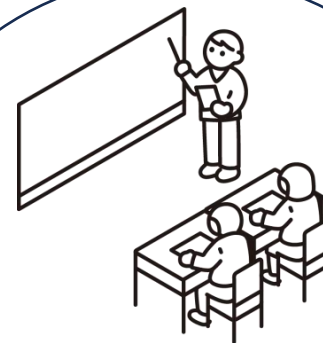


大きな環境変化

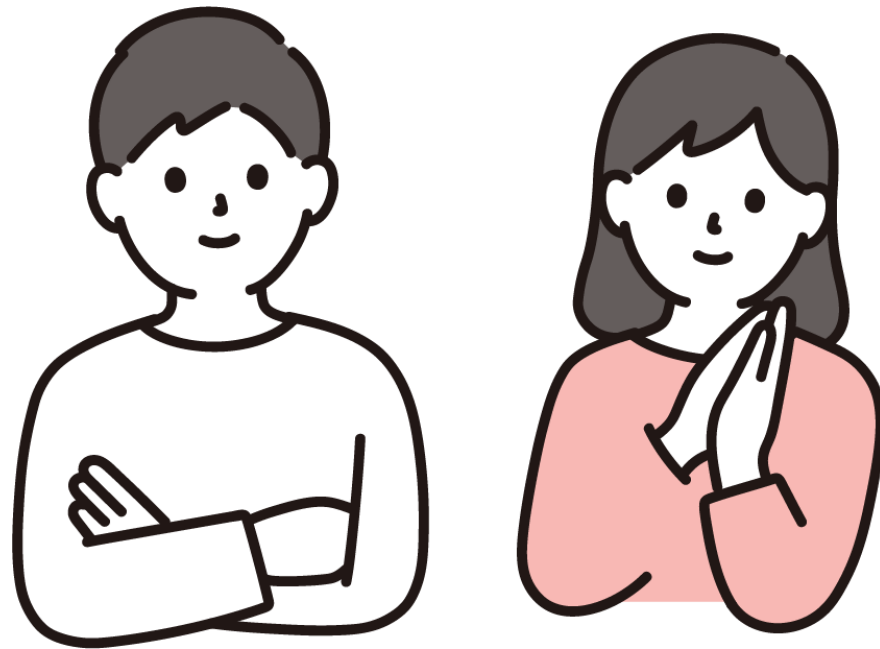


渡航前・滞在中・帰国時の
一貫した支援の享受困難

外国で親子が社会的に孤立する危険性



支援開始の遅れ



必要な支援 ー保護者の立場からー

必要な支援 －保護者の立場から－

- 01. 母国語での情報提供支援システム
- 02. 言語・文化的背景が共通した専門家/支援者の存在
- 03. 保護者の心身負担軽減のためのサポート
- 04. 日系教育機関での支援の受けやすさ

必要な支援 – 保護者の立場から –

01. 母国語での情報提供支援システム

- ・「支援の入り口」を母国語で示す、信頼背の高い情報提供の仕組み作り
- ・外国の支援制度の仕組み/具体的にアクセスできるサポート/日本への帰国時に必要な情報etc…

02. 言語・文化的背景が共通した専門家/支援者の存在

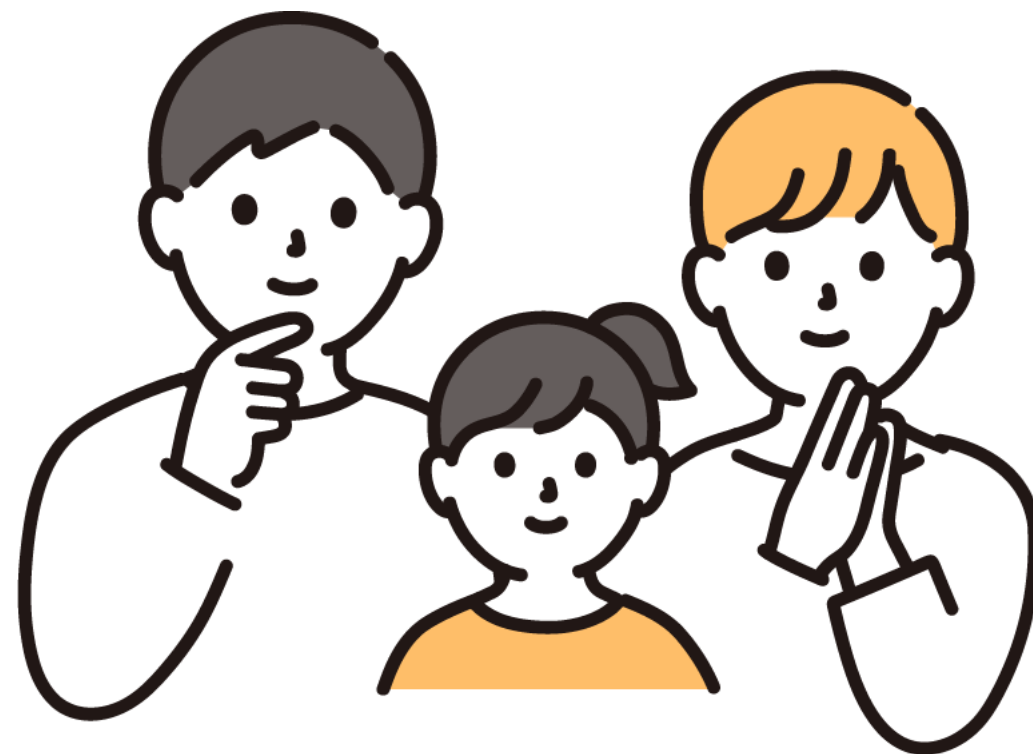
- ・日本人専門職への支援が受けられるような整備
- ・児童精神科医・言語聴覚士・作業療法士・理学療法士・心理士など

03. 保護者の心身負担軽減のためのサポート

- ・異国における保護者自身への心理的サポートシステムの整備。
- ・言語・文化的理解のある専門職やピアグループとの繋がりやすさ

04. 日系教育機関での支援の受けやすさ

- ・日本人学校や日系幼稚園で子どもが必要な支援にアクセスしやすい環境整備
- ・特別支援人材の充実



まとめ

まとめ

《1》外国で発達障害児を育てる日本人の家庭はまず支援に「繋がること」自体が非常に困難な状況にあり、孤立しやすい

《2》外国にルーツをもち支援を必要とする子とその家族の前には、「言語・制度・文化の壁」が幾重にも立ちはだかっている

《3》支援までの壁を取り除くためには日本と外国を繋ぐ専門家や支援機関の存在、連携したシステムづくりが子どもと保護者の重要な助けになる